

学びの広場



京都市教育委員会
教員養成支援室
令和6年11月23日 No.4

第3回京都市教育学講座

若手教員パネルディスカッション 『教師の喜びと厳しさ』



第3回は、京都市の小学校、中学校、高等学校、総合支援学校、養護教諭、栄養教諭の、校種・職種の異なる6名の若手教員によるパネルディスカッションを実施しました。『教師の喜びと厳しさ』をテーマに、教職のやりがいや魅力、困難に直面したときにどのように乗り越えてきたか、教師として大切にしていることなどを、エピソードを交えながら熱く語っていただきました。またディスカッションの最後には、目的意識や課題意識をもって教師塾に参加すること、様々な人との意見交流を通して教育に対する考えを深めることなど、塾生に今できることを伝え、教職をめざすことへのエールを送っていただきました。比較的年齢の近い先生方が、現場で生き生きと頑張っておられることが、話の内容や表情から伝わり、塾生にとっても教職をめざすことへの励みとなる回となりました。



分散会の様子



分散会では、パネリストの先生方に、それぞれのクラスを巡回していただきました。お話をさらに聴きたい先生方の周りに集まって、塾生が質問や相談をし、それに対して先生方が丁寧に答えてくださいました。直接パネリストの先生方と交流することで、さらに学びを深めている姿が印象的でした。

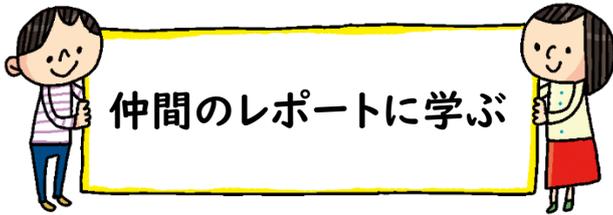
特別講座②

総合教育センター指導主事 津高 修一 / 岩本 信吾

『京都市での GIGA 端末を活用した授業実践 ～KYOTO×教育 DX ビジョンを踏まえた指導～』

映像配信の特別講座②では、「教育 DX で授業はどのように変わるか」や「KYOTO×教育 DX ビジョンの取組」についてご講義いただきました。一人一台端末を文房具として日常的に活用できる環境の下、子どもがデジタルとアナログ双方の強みを理解したうえで、場面や自身の特性に応じて使い分け、学びの当事者として、自分自身に合った最適な学びを模索する主体的な姿を、教師が引出し、支えることの重要性を語っていただきました。具体的な実践も多数紹介していただくとともに、デジタルシティズンシップ教育や校務デジタル化による働き方改革の推進など、内容も多岐にわたっており、教育現場の最新の動向を学ぶことができます。





仲間のレポートに学ぶ

このコーナーでは、「レポート集」に綴られた素晴らしい学びの1ページを紹介しします。ぜひ、仲間の学びにふれてみてください。

第2回京都市教育学講座

若手教員パネルディスカッション 『教師の喜びと厳しさ』を受講して



教師の仕事には不安がつきものであるが、それ以上にやりがいのある仕事だと実感した。若手の先生方の貴重なお話を聞き、学校現場で起こりうる不安をどうやって自身のやりがいに転換するのかを学んだ。それは生徒や保護者、他教員との関わりを通して得られるのだと思う。例えば、私は英語が好きだ。しかし、生徒が私と同様に英語を楽しんで学ぶことができるのか不安だ。そんな時は生徒主体で考えた授業を計画することが大切だと学んだ。生徒が何に興味を示し、何を学びに繋げられるかを考えることで生徒が夢中になれる授業ができる。また保護者や他教員との関わりを通して生徒の成長を支えることで、一人では抱えきれない不安を協力して対処することができる。A先生(パネリスト)の保護者との関わり方として、生徒の家庭での様子を伺うことを徹底されていた。教師は生徒の学校での一面しか知らない。だからこそ生徒の家庭での様子や、また他教員との世間話を日頃から行うことで生徒の様々な一面を知り、情報共有をすることで起こりうる問題を未然に防止することにも繋がると理解した。

他にも、高校生が自身の進路を考えるのは難しい。だからこそ教師としての責任を十分理解した上で一人の大人として生徒と対等に接することが重要だと気づいた。A先生自身の失敗談を例とした「自立と放任」のお話ではとても深く考えさせられた。「生徒がやりたいことを活動させているがその目的が違う方向に向いているならそれは自立なのか?」いや、生徒に活動を行う目的を明確に持たせた状態で、生徒同士で対話をさせ考えさせて解を導き出させることが生徒の自立につながると深く理解した。自立と放任の線引きは難しいと思うが、一人一人の生徒の進路に合った自立した姿を身に付けさせることが重要であることを踏まえて、私は様々な活動や体験を通して私なりの生徒を想った指導方法を磨き実践できるように力をつけたい。

パネルディスカッションでのお話の様子から、6名の先生方の生徒に対する温かな想いが感じられた。その生徒を想う気持ちが「生徒愛」であり、教師としての「やりがい」になっているのだと思う。日頃から生徒と向き合い、生徒の言動の裏にある想いを探り寄り添う姿勢を基盤にした生徒理解を心がけ、生徒一人一人との関わりを大切にしたい生徒愛あふれる先生に私はなりたい。

校種・職種の違う先輩方の貴重なお話を聞き深く考え学べましたね。「教師の仕事には不安がつきもの、でも、それ以上にやりがいのある仕事」どの先生方からも「やりがい」が伝わってきました。「不安を自身のやりがいに転換する」方法は今日の講座を参考に自分自身のベストを見つけていきたいですね。「自立と放任」の線引きは、校種、子どもの実態によって変わってきます。「子どもの視点」(第2回講座より)で考えたいですね。さて今から「どんな活動や体験」を積んでいきたいですか。幅広い知識も土台になりますね。先輩方に負けない「生徒への愛」に溢れる先生をめざして今からできることを頑張っていきましょう。
～クラス担当スタッフからのコメント～

次回は、

京都市教育学講座⑤ 小学校専門講座『小学校における教科学習(道徳)～自ら学ぶ力を育む授業づくり～』 中学校専門講座『生きる力を育む道徳教育～自らを律する力を育む授業づくり～』

総合教育センター指導主事(道徳)の先生方による模擬授業を伴った講座です。「道徳教育と道徳科」についてや実際の模擬授業を通して、道徳的な課題を「他人事」ではなく「自分事」としてとらえる授業づくりについてお話いただけます。分散会では、講義から学んだことを活かして、新たな教材で「めあて」や「中心発問」「児童・生徒の反応」を考える活動を行います。分散会中は、指導主事の先生方に組ごとに巡回していただくので、疑問に思ったことやさらに知りたいと思ったことを積極的に質問していきましょう。